

片浦みかんプロジェクト

コーディネーター：FM小田原

取組の背景

情報や流通などの発達により、世界においては国境を超えたグローバルな基準が形成されつつありますが、日本の地方都市、とりわけ中小企業や農林水産業では、少子高齢化のなか人口減少や大規模チェーン店等で販売される安価な海外商品との過当競争などによるさまざまな問題が山積しています。これからの私たちは、今後ますます消費や労働人口の減少が顕著になる未来を見据えて、右肩上がり・経済一辺倒の考え方から、今まで以上に「人・物・お金」を地域に循環させながら、持続可能な社会づくりへの発想・業態の転換が求められていると考えます。

活動の狙い

地の中で生かされているという、人間の分度をわきまえながら、天地の恵みに感謝し、四季の彩りに心を和ませ、自然環境とも調和しながら、人と人との絆を大切にしたい心豊かな社会づくりを目指しています。

まず「小田原みかんの価値の再構築」を目標に掲げ、年間を通じ農家の方にとって安定した価格で、みかんをはじめとする柑橘類を流通させることを目指します。

また、最終的にはこの地区において、みかん（柑橘類）栽培に携わる人々の自助の力で、栽培～収穫～販売までできる仕組み作りのサポートを目的としています。

実施内容

片浦地域の農家さんが作る、日本一低農薬な片浦レモンを適正価格で買い取り、搾汁してサイダ

ーやお菓子の原材料として出荷しています。また、小田原みかんシリーズとして、みかんサイダーやみかンドロップの販売も行っています。

活動の成果

皆様には趣旨をご理解いただき、片浦みかん&片浦レモンの売れ行きは好調です。お歳暮みかんや片浦レモンサイダーは、毎回生産した分が完売御礼となります。

柑橘類が一年を通して適正価格で売れることにより、片浦地区の農家さんに大変喜んでいただき、作付面積を増やす方もいます。

今後の展望

本プロジェクトは、地域の企業や個人の推譲（ボランティア）によって活動しています。片浦地区の農家さんの支援を目的として活動を開始しましたが、現在その範囲を小田原市・足柄上郡・足柄下郡に広げ、「お歳暮みかん」、「地域振興サイダー」の企画販売を中心に、「農援隊」や「新商品開発プロジェクト」などを展開しています。今後も、地元の農家と商工業者をつなげながら、地域の農商工連携による活性化を推進します。

参考URL

<http://www.odawara-kankitsu.com/>



取組の経過

平成22年11月

「片浦みかんプロジェクト」始動

「小田原みかんの価値の再構築」を目標に掲げ、年間を通じ農家の方にとって安定した価格で、みかんをはじめとする柑橘類を流通させることを目指し、活動を開始しました。

平成22年12月

お歳暮みかん販売開始

小田原特産の「片浦みかん」が、初めてお歳暮商戦に参入した。一般のスーパーマーケットでは手に入らない「ミカン本来の甘酸っぱさ」という希少性でブランド化を図る試みの第1弾である。現在まで、毎年完売御礼となっています。



毎年大好評のお歳暮みかん

平成23年4月

片浦レモンサイダー販売開始

片浦地区では、農家さん達が「片浦レモン研究会」を組織し、30年以上もの間お互いのノウハウを共有しながら、丹精込めてレモンを栽培し続けています。年に一度しか農薬を散布しない、ノーワックス・防カビ剤不使用の片浦レモンを使用し、地域振興サイダーの販売を開始しました。

平成23年11月

「農援隊」を結成

地元で熱心に農業に励む農家さん達を応援するために、農援隊を結成し、小田原で新鮮な野菜づくりに励む農家さんと、販売を希望される方とのマッチングのお手伝いなどを行っています。

平成23年度には富士山を望む小田原市内の富水・成田地区の田んぼを「みんなの田んぼ」として1年間所有し、農家と一緒に米作り体験を行った。期間中は農家が管理するため、安心して農作業が体験できると好評でした。



片浦産レモンを使用した地域振興サイダーも大人気
平成24年4月9日

「食と地域の『絆』づくり」優良事例に選定

農林水産省は、国民の「いのち」を支える基礎として、「食」を生み出す農林水産業と、その舞台となる農山漁村の活力を再生するため、地域内外の結び付きによる創意工夫にあふれた地域活性化の先駆的優良事例を「食と地域の『絆』づくり」として選定し、全国に発信しています。本プロジェクトは、平成23年度までの取組が評価され、優良事例として選定されました。



片浦地区の農家さんが手間暇かけて生産